

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 16日

京都市長 殿

提出者

住 所 大阪市淀川区西中島5-14-10

氏 名 西武建設株式会社 関西支店

執行役員支店長 大西康雄

電話番号 06-6305-7401

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	西武建設株式会社 関西支店(京都市内の建設現場)
事業場の所在地	大阪府大阪市淀川区西中島5-14-10
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	D06 総合工事業
② 事業の規模	803,874万円(令和6年度関西支店完成工事高)
③ 従業員数	76人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1 産業廃棄物の一連の処理の工程による

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2 管理体制組織図による

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり
	排出量	t t
	(これまでに実施した取組) ・梱包材の削減 ・施工方法検討による廃棄物の削減	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙集計用シートのとおり
	排出量	t t
	(今後実施する予定の取組) ・簡易梱包等廃棄物の要因となる梱包材の減量を図る ・施工方法検討による廃棄物の削減 ・現場にて可能な限り分別を行い、混合廃棄物を出さない	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・コンクリートがら、その他のがれき類、石膏ボード、木くず、金属くず、廃プラスチック、紙くずは分別する
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・建設混合廃棄物はできる限り分別し排出する

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（            年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（            年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) なし			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（            年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり t
	(これまでに実施した取組) なし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙集計用シートのとおり t
	(今後実施する予定の取組) なし	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（            年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	別紙集計用シートのとおり t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(これまでに実施した取組) ・委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し、書面による契約を実施している。 ・再資源化率の高い業者を選定している。	

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙集計用シートのとおり	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・可能な限り「優良認定処理業者」を選定し適切な処理に努める ・電子マニフェスト対応業者を優先的に選定し、紙マニフェストの利用を減らす ・委託先処理業者には定期的に現地確認を実施する		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書の〔集計用シート〕

・下表にない種類の産業廃棄物については、「産業廃棄物の種類」欄に、品目名を記載してください。  
 ・行が不足すれば、適宜追加してください。

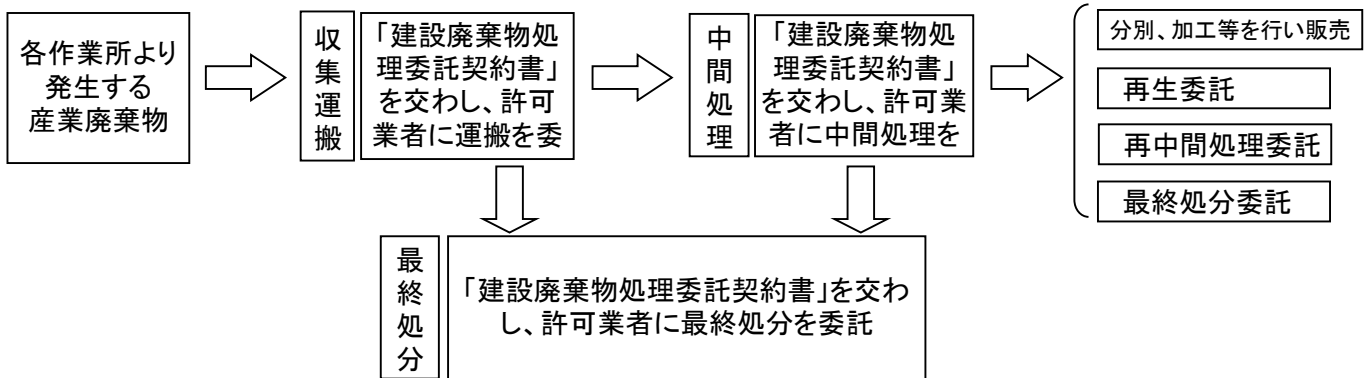
産業廃棄物の種類	① 排出量(t)		② 自ら直接再生利用した量(t)		③ 自己直接埋立処分又は海洋投入処分した量(t)		④ 自ら中間処理した量(t)		⑤ ④のうち熱回収を行った量(t)		⑥ 自ら中間処理した後の残さ量(t)		⑦ 自ら中間処理により減量した量(t)		⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量(t)		⑨ 自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t)		⑩ 直接及び自ら自己処理した後の処理委託量(t)		委託先による区分 (⑪=①-②-③-④+⑥-⑧-⑨=⑩+⑬+⑭+⑮+⑯)										⑫+⑬自ら再生利用を行った量(t)		⑭+⑮自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t)			
	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標	前年度実績	今年度目標				
法で定められている種類(シュレップ、ゴミなど、一体不処分のものについては、空欄行に記載してください。)	当該事業場において生じた産業廃棄物の種類ごとの量		①の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量		①の量のうち、中間処理をせず自ら埋立処分又は海洋投入処分した量		①の量のうち、自ら中間処理した産業廃棄物の当該中間処理前重量		④の量のうち熱回収を行った量		自ら中間処理を行った後の量		④の量から⑤の量を差し引いた量		⑥の量のうち、自ら利用し又は他人に売却した量		⑥の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量		中間処理及び最終処分を委託した量		⑩の量のうち、処理業者への再生利用委託量(⑬、⑭を除く)		⑩の量のうち、認定熱回収施設設置者である処理業者への焼却処理委託量		⑩の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量		⑩の量のうち、委託して焼却等の中間処理した量(⑮～⑯を除く)		⑩の量のうち、直接委託して埋立て最終処分した量		⑩の量のうち、優良認定処理業者への委託処理量		⑫の量と⑬の量を合計したものと(自動計算)		⑭の量と⑮の量を合計したものと(自動計算)	
燃え殻												0	0					0	0													0	0	0	0	
汚泥	627	0										0	0					627	0	627												0	0	0	0	
廃油												0	0					0	0													0	0	0	0	
廃酸												0	0					0	0													0	0	0	0	
廃アルカリ												0	0					0	0													0	0	0	0	
廃プラスチック類	1	3										0	0					1	3	1	3									1	3	0	0	0	0	
ゴムくず												0	0					0	0													0	0	0	0	
金属くず												0	0					0	0													0	0	0	0	
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず												0	0					0	0													0	0	0	0	
紙くず												0	0					0	0													0	0	0	0	
ばいじん												0	0					0	0													0	0	0	0	
繊維くず												0	0					0	0													0	0	0	0	
動物系固形不要物												0	0					0	0													0	0	0	0	
石綿含有産業廃棄物												0	0					0	0													0	0	0	0	
廃石膏ボード												0	0					0	14	14										14	0	0	0	0		
混合廃棄物(安定型)												0	0					0	0												0	0	0	0		
混合廃棄物(管理型)	20	140										0	0					20	140	20	140									20	140	0	0	0	0	
アスコンから	0	18										0	0					0	18	18										18	0	0	0	0		
合計	1,138	234	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,138	234	1,138	234	0	0	0	0	0	0	0	0	122	234	0	0	0	0	

(注1)トン未満は原則として四捨五入、ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。

## 産業廃棄物の一連の処理の工程

- 1) 産業廃棄物の収集運搬・処分許可業者と契約書を交わして委託し、マニフェストにて管理する。  
(可能な場合は、電子マニフェスト・電子委託契約とする。)

契約前に、許可証の有効期限・許可内容、車両一覧表、運搬ルート図、反社会的勢力でないこと等を確認してから契約を行う。



## 2) 産業廃棄物の一連の処理の工程

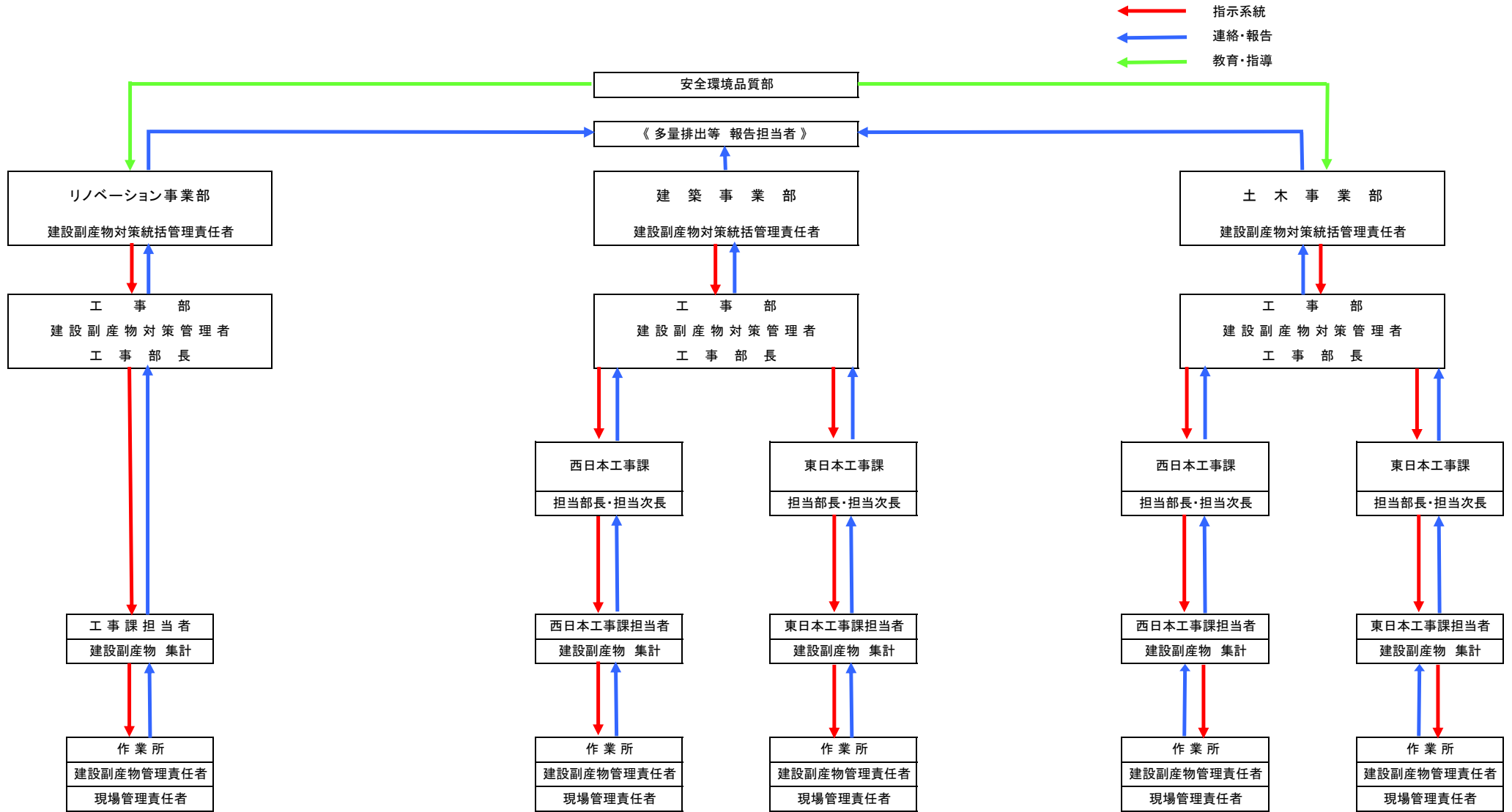
- ・建設汚泥→再生処理業者に委託→リサイクル土材とし売却
- ・廃プラスチック類→塩ビ管、代替え燃料 等
- ・紙くず→再生処理業者に委託→再生紙、代替え燃料 等
- ・木くず→再生処理業者に委託→再生紙、代替え燃料 等
- ・繊維くず→再生処理業者に委託→セメント代替原料、肥料
- ・金属くず→再生処理業者に委託→金属原料
- ・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず→再生原料として売却
- ・がれき類→再生処理業者に委託→→再生原料として売却
- ・混合廃棄物→再生処理業者に委託→分別し、各品目ごとにリサイクルを行う
- ・廃油→再生処理業者に委託→→中和し有価売却、最終処分
- ・廃酸→再生処理業者に委託→→中和、中和酸化還元凝集沈殿し有価売却、最終処分
- ・廃アルカリ→再生処理業者に委託→→中和、中和酸化還元凝集沈殿し有価売却、最終処分
- ・水銀使用製品産業廃棄物(蛍光灯)→再生処理業者に委託→再生ガラス製品、アルミ材、水銀
- ・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず→安定型又は管理型最終処分場に埋立  
(石綿含有産業廃棄物含む)
- ・廃プラスチック類→安定型又は管理型最終処分場に埋立  
(石綿含有産業廃棄物含む)
- ・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず→再生原料として売却  
(廃石膏ボード含む)
- ・がれき類→安定型又は管理型最終処分場に埋立  
(石綿含有産業廃棄物含む)

# 建設副産物対策管理組織図

\* サイボウズ>ISO関連資料>環境MS>関連資料

別紙2

作成日 2025年4月1日



※電子マニフェスト集計又は「建設副産物処理月間集計表」・任意帳票にまとめ、処理結果がいつでもわかるよう記録を整理する。可能な場合、紙マニフェストは、イーリバースに登録する。

※毎年4月3日まで及び工事竣工後に、建設副産物処理実績数量を取りまとめ地区担当部署の担当者へ報告する。